

平成 27 年度 事業報告書

平成 28 年 5 月 22 日

特定非営利活動法人 志木総合型地域スポーツ・レクリエーションクラブ

(NPO 法人 クラブしっきーず)

理事長 増田 三枝子

電話番号 048-234-9487

1. 事業の成果

クラブしっきーずは、文部科学省が策定した「スポーツ基本計画」に掲げられた『総合型地域スポーツクラブ』として平成 12 年に発足、平成 14 年に NPO 法人の認証を受けた。

当初、宗岡三小ボランティアルーム内にあった事務局は、法人認証後に初代理事長宅へ移り、平成 20 年には組織体制の大きな変革を経て『まちづくり NPO』として空店舗活用の“ステーション”を開設。法人 10 年目に、3 軒目となる空店舗に移転し、クラブハウス機能をも持つ市民交流の場「まちの縁側」を埼玉県 NPO 基金の助成により整備。設立後 16 年の現在、他に類をみない「多世代・多様な福祉活動拠点」として、安定した活動が継続できている。

平成 25 年度の総会において、まちづくりの推進を図る活動をより充実させるため、**まちの課題を解決するため実施している事業の実態**に即したものに、定款を変更した。「世代や障がいの有無を問わず**地域に暮らすすべての人**に対して参画を促し、スポーツ・レクリエーション及び文化活動を実施し、それを通して**心の交流**を図る」ことを目的としたのである。まさに、「スポーツと福祉とが融合する時代」を体現するチャレンジでもあり、この結果、会員 200 名程の小さな地域スポーツクラブが、埼玉県シラコバト長寿社会福祉基金・独立行政法人福祉医療機構 (WAM)・埼玉県共同募金会 (あかいはね) からの助成を受けて事業展開できたことは、**大きな成果であった**。

さて、いつのときにも「自ら楽しむ・できる人ができることをする」をコンセプトにクラブ運営してきたしっきーずであるが、27 年度に特筆すべきは、『ホスピタリティの向上』である。特に、多世代で障がいのある人も共に楽しむプログラムでは、リーダーの指示がなくても、参加者どうしの自然な声かけやサポートが生まれ、笑い声が絶えなかった。

とにかく、『どなたでもどうぞ』を実践し続けた先に現れたのは、——いろいろまざるとい——という事実であった。生産性・合理性のもとカテゴライズ (分類) することが当然であるかのような平成時代。しかし、分けずに仲間として活動していくと、たし算ではない、かけ算の結果が出たのである。カテゴリーを廃したら、相乗効果が得られ、『孤立』をなくしていく方法につながっていった、といえよう。

平成 27 年度は、市委託事業 2 件を含め、クラブ自主事業の定期・スクール・イベントプログラムを合わせると、前年を上回る 8,900 名の参加があり、文字通り『多様な市民交流』が展開された年であった。事業規模においても、設立以来最大となり、多方面からいただいた支援・協力には、心よりの感謝を申し上げたい。

「ひととひととのつながり」をテーマに活動してきた、誠実かつ着実な歩みは、次代を担う子どもや若い世代にも受け継がれ、『福祉マインド』の萌芽が感じられる。